

太田三郎 新作展「子供の時代」開催のご案内



写真:《石の小箱》(2009)より

太田三郎は、日々の生活の中で、ともすれば見過ごしたり、気に留めず忘れてしまう些細な物事、たとえば道端に生える草花の実や種子、新聞の片隅に載った小さな記事などを、「切手」という身近なかたちに留めることで私たちに提示します。その作品は切手の形状とその中に収められたモチーフによって鑑賞者の想像力を解き放ち、その背後に存在する時間や空間についての実感に満ちた世界へと導きます。

本展で発表される新作《あひるの子供たち》はダウン症児をもつ親によって設立された団体『あひるの会』との交流から、そして《石の小箱》は児童虐待についての新聞の報道に基づいて制作されたものです。

太田の作品は、植物の種子を和紙に封入し、採集した年月日と場所を記した切手状の作品《Seed Project》に代表されますが、その一方で、第二次世界大戦から帰らなかった兵士や原爆被爆者、中国残留日本人孤児など、戦争によって引き起こされた問題もまた、作品の題材として多く取り上げられてきました。戦争を過去の出来事と決めつけるのではなく、私たちがいる「今ここ」に繋がっていることとしてとらえる、この《Post War》シリーズと関連する作品に、《最後に勝つのはまごころである》があります。シベリアに抑留された日本人捕虜、山本幡男が強制収容所の病床で記した家族への遺書4通(4500字)のうち、子供達に宛てた手紙を太田が自ら書き写した作品です。収容所では文字にしたものを持ち帰ることは一切禁じられていたため、仲間たちが危険を顧みず遺書の一文一句を暗記し、帰国後遺族へ届けたという事実に太田は胸を打たれました。この作品は「伝える」ことの難しさと、その困難を乗り越えて伝えられるものの豊かさや深みを湛えています。それはまた、太田の作品全体に通底する本質的な要素でもあります。

ハンディキャップをもって生まれながらも、親の愛情に包まれて前向きに生きる子供たちと、健常児として生まれながら、身近な大人の手によって命を失う子供たち。このような子供の現実について私たちは普段、新聞やテレビなどの報道でしか見聞きすることはありません。とした「情報」は、その時私たちの心を動かすことはあっても、心の動搖はしばらくすると大量の情報に紛れてかき消されてしまいます。太田は、痛ましい出来事を耳にする度に抱くやるかたない思いと、自らが接してきたダントン症児やその両親との交流から得た温かな実感の両方を、「伝える・繋がる」ための手段としての作品に託し、静かに提示します。人間が成しうることと犯してしまうこと、人間の強さと弱さを証明するふたつの事実を、一人でも多くの人に真摯に受けとめてもらいたいという“祈り”に満ちた作品たち。これらの作品の中に息づく、ふたつの「子供の時代」は、単なる「情報」とは全く異なる深度で、見る人の心に伝わることでしょう。

子供の成長を見届けることなく、遠い異国での息を引きとった山本幡男の遺書の冒頭には次のような言葉が記されています。

「——私の夢には君たちの姿が多く現れた。それも幼なかった日の姿で……ああ何という可愛い子供の時代!」

【展覧会概要】

題名：太田三郎 新作展「子供の時代」／ Saburo Ota - The Age of the Child -

会期：2010年3月19日(金)～4月10日(土) *日・月休廊

会場：アートコートギャラリー 〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F

開廊時間：11:00～19:00 (土曜日～17:00)

◆ レセプション：3月19日(金) 17:00～19:00

◆ 作家在廊日：3/19(金)、20(土)、27(土)、4/3(土)、10(土)

[作家の太田三郎と、作品について直接お話しいただけます。]

◆ 本展における売上げの一部が、財団法人日本ダントン症協会大阪支部に寄付されます。

主催：アートコートギャラリー(有限会社八木アートマネジメント)

協賛：三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社・オー・エー・ピーマネジメント株式会社

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [八木・清澤] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449

E-mail:info@artcourtgallery.com URL:www.artcourtgallery.com

太田三郎 新作展「子供の時代」出展予定作品

〈石の小箱〉



写真:《石の小箱》(2009)より

児童虐待の報道に接する度、胸が痛くなる。厚生労働省の専門委員会の報告書によれば、2005年に児童の虐待死は51件(56人)あり、その内訳は身体的虐待が44人、食事を与えないなどの養育放棄が7人など。加害者は実母が38人、実父が11人、実母の交際相手が2人、継父と継母各1人などで、実母の場合育児不安やうつ状態にある者が目立つという。虐待には他に、性的虐待や無理心中なども含まれる。

一方、親と離れて児童養護施設や里親のもとで暮らす子供のうち、約5割が保護者らに虐待された経験があることがわかっている。厚生労働省の児童養護施設入所児童等調査によれば、2008年2月1日現在、入所や里親委託の児童は全国で4万1602人。2003年の前回調査より3284人増え、1970年以降初めて4万人を超えた。このうち養育放棄や暴力など、虐待された経験がある子供は約2万1千人にのぼる。入所や里親委託の直接の理由で最も多いのは虐待で33.9%、母の精神疾患や経済的理由、母の行方不明などが続く。障害のある子供は前回より2295人増の1万588人で、4人に1人の割合だ。障害がある場合、養育の負担が大きく、虐待に繋がる可能性があるという。2007年から、私は21世紀以降の朝日新聞縮刷版の閲覧を始めた。児童虐待の記事は2001年が最も多いが、その後は減少傾向にある。だがこれは虐待件数が減ったのではなく、ニュースとしての目新しさが失せたため、報道されなかつたと見なすべきだろう。惨い記事を目の当たりにしながら、私には子供たちの冥福を祈ることしかできなかった。

「石の小箱」は虐待されて亡くなった子供たちに捧げる作品である。切手状の紙片には、子供の名前と死亡時の年齢および年号を記した。100人の子供たちのうち92人は5歳以下である。箱には小さな石を詰めた。私はこれらの小石が夜空に放たれ、星になって輝くさまを思い描きながら、手を合わせる。

(太田三郎)

〈あひるの子供たち〉



写真:《あひるの子供たち》(2009)より

ダウン症児親の会「あひるの会」は、岡山県北部全域で活動をしている。結成から21年経った現在、子供の年齢は1歳から27歳まで、会員は51家族となった。ダウン症児を授かった両親を精神的に支え、ダウン症児はじめ全ての障害児の地域での理解を願いながら、会員同士の結束を深めている。染色体異常が原因で障害を持つダウン症児は、平均すると千人に一人の割合で生まれるという。運動面でも精神面でも発達がゆっくりで、心臓などにも障害を持つ子供が少なくない。

私と「あひるの会」の交流は、2008年「あひるの会 20周年記念事業」の一環として子供たちの絵画指導を依頼されたことから始まる。私は絵画の指導ではなく、ミュージアムショップにおいてあるようなアートグッズを作ることを提案した。作ったものが売れるようになれば、将来的にダウン症児の自立支援に繋がるだろうし、ビーズに糸を通したり、紙を切る作業が指先の訓練に役立つと考えたのである。

障害を持って生まれた子供と保護者が、希望を持って生きるために始めた小さな試みだが、交流を深める中で彼らはみな前向きに暮らしていることが理解できた。意思の疎通が難しい子供もいるが、多くは明るく純真で、笑顔が可愛い。いつしか、そんな子供たちの肖像切手を作りたいと思うようになった。プライバシー保護の問題や、障害に対する配慮が十分できるものか私の中にためらいがあり、制作を願い出たのは昨年春のことである。夏休みに入った頃から、19名の子供とその家族が申し出に応じてくださった。

ダウン症に対する社会的理解はまだまだ足りない。障害を持った子供たちがどのように学び、成長した後どこで働き、何を喜びとして生きているかを知る機会は少ない。世の人々が彼らやその家族と交わることで、ダウン症児のみならず弱い者や劣る者をやさしく受けとめ、慈しむ心が社会に広がることを願っている。

(太田三郎)

*上記の作品に加え、既成の切手を使用した新作や、被爆樹の葉を用いた未発表の作品、そして代表作《Seed Project》より、2008~2009年に制作された作品なども展示予定です。

太田三郎 略歴

Saburo Ota

1950	山形県に生まれる
1971	国立鶴岡工業高等専門学校機械工学科卒業
	主な個展
1990	「ギャラリーなつか／東京（'91、「94、「96、「98、「99、「00、「01、「04、「06）」
1992	「切手が運ぶもの」アートサイト／福井
1993	「Post War 50 私は誰ですか」コバヤシ画廊／東京
1995	「1984～1996 12 年の軌跡」MACA Gallery
1996	「Clover Plan」キリンプラザ大阪／大阪
1997	「プラスマイナスギャラリー／東京 ぎやるり舎／山形 「Post War 54 梶原地蔵」コバヤシ画廊／東京 「Post War 55 梶原衝」コバヤシ画廊／東京 「Nagi Project 2000」奈義町現代美術館／岡山 「存在と日常」CCGA 現代グラフィックアートセンター／福島
1999	「太田三郎 2000 - 2001」西宮市大谷記念美術館／兵庫
2000	「Post War 56 無言館」コバヤシ画廊／東京 「On the Beach, Seed project from KANAZAWA」金沢市民芸術村／石川
2001	「戦争の世紀」コバヤシ画廊／東京
2002	「いのちを考える 太田三郎と中学生たち」伊丹市立美術館／兵庫
2003	「清水へのオマージュ」環境芸術ネットワーク 虹の美術館／静岡 「バーネット一世界は繋がっている」丙申堂／山形 「Post War 60 梶原者」コバヤシ画廊／東京
2004	「太田三郎 On the Beach 1987 - 2007」奈義町現代美術館／岡山
2005	「太田三郎展」ABX Gallery／東京
2006	「ヘイリ・クムサンギャラリー／バジュ, 韓国 「太田三郎 - 日々」山形美術館／山形
2007	「太田三郎 - 日々」山形美術館／山形 「太田三郎コレクションによる太田三郎展」ギャラリーすずき／京都 「Post War 62 軍人像」コバヤシ画廊／東京 「太田三郎 - 日々」山形美術館／山形
2008	「田中恒子コレクションによる太田三郎展」ギャラリーすずき／京都 「太田三郎 HIROSHIMA 1990 - 2008」大原美術館／岡山 「平成 20 年春の有隣荘特別公開 有隣荘・太田三郎・大原美術館」大原美術館／岡山
2009	「市民交流プログラム 集めるることはアートになる！」鶴岡アートフォーラム／山形 「太田三郎一歳ニ居マス」勝山文化往来館ひしょ／岡山 「太田三郎の世界にようこそ」温海ふれあいセンター／山形
2010	「市民交流プログラム 集めることはアートになる！」鶴岡アートフォーラム／山形 「太田三郎 Palais Thurn und Taxis / ARTCOURT Gallery

1993	「INSIDE EYE The 3rd展」ギャラリー日鉛／東京、イトーキ・クリスタル・ホール／大阪
1994	「人間の条件展 - 私たちはどこへ向かうのか。」 スパイラル／東京、芦屋市立美術博物館／兵庫
	「現代人間像 - 〈わたし〉という存在証明」北海道立近代美術館／北海道
	「時間／美術 - 20世紀美術における時間の表現」滋賀県立近代美術館／滋賀
1995	「現代の版画 1994」渋谷区立松壽美術館／東京
1996	「未来のノスタルジー - 山形同時代作家展」山形美術館／山形 「50年後 - 彼らはなぜ戦をするのか - 」徳島県立近代美術館／徳島
	「Prints to Benefit the Foundation for Contemporary Performance Arts」
1997	「Brooke Alexander / ニューヨーク、アメリカ 「心を癒す植物 - アート・ボタニカル・ガーデン」目黒区美術館／東京
1998	「アートは楽しい8 -複製時代」ハラミユージアムアーケーク／群馬 「(私) 美術のすすめ - 何故 〈WATAKUSHI〉は描かれたか」板橋区立美術館／東京 「Document & Art - その浸透性をめぐって - 」アートミュージアム銀座／東京 「メディアアローグ - 日本の現代写真 '98」東京都写真美術館／東京 「アート／生態系 - 美術表現の〈自然〉と〈制作〉」宇都宮美術館／栃木 「加害／被害」板橋区立美術館／東京
1999	「Don't you know! (どうないやねん!)」国立高等美術学校／パリ、フランス 「Zeitgenössische Fotokunst aus Japan / Contemporary Photographic Art from Japan」 Neuer Berliner Kunstverein／ベルリン、ドイツ
2000	「Yume no Ato - What remained of the dream... : Contemporary Art from Japan」 Haus am Waldsee／ベルリン、ドイツ Staatliche Kunsthalle / バーデン・バーデン、ドイツ 「イレブン＆イルブン コリア・ジャパン・コンテンポラリー・アート 2002」
2001	「省谷美術館／ソウル、韓国 「熊野の森 アート & ミュージックプロジェクト」和歌山県那智山一帯／和歌山 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2003」越後妻有 6市町村／新潟 「世界へ飛ばそう、ひらかたの種」(市民との共同展覧会)枚方市立御殿山美術センター／大阪 「空と大地を旅する 太田三郎・栗田宏一展」京都芸術センター／京都 「集めること - 記憶への旅」広島市現代美術館／広島
2002	「The 1st Pocheon Asian Art Festival」ボチヨン市、韓国 「福島現代美術ビエンナーレ 2006」福島文化センター／福島 「金車室のガルトシャイサー」旧日本銀行広島支店／広島 「ヘイリ・アジアプロジェクト2 日本国現代芸術祭」ヘイリ芸術村／ノバジュ市、韓国 「虹の美術館の軌跡」静岡県立美術館／静岡
2003	「20世紀の人間像」群馬県立館林美術館／群馬 「ACG eyes : 太田三郎を中心に - 日常の、アート - 」アートコートギャラリー／大阪 「自宅から美術館へ 田中恒子コレクション展」和歌山県立近代美術館／和歌山 「射折版現代湯治2009.射所温泉街／山形
2004	「KAMI - 静と動 現代日本の美術」ザセント立美術館版画素描館／ドレスデン、ドイツ
2005	「PERSONAL STRUCTURES TIME - SPACE - EXISTENCE」 Künstlerhaus Palais Thurn und Taxis / ARTCOURT Gallery
2006	
2007	
2008	
2009	
2010	